

# 願いをこめて夜空に舞い上がる 上松木内の紙風船上げ



台湾で小正月の夜に行われている紙風船「天燈(テンダン)」も参加。薄紙と竹で作られた、高さ1.5メートルの紙風船(写真右)

西木町上松木内の小正月行事「上松木内の紙風船上げ」が2月10日、紙風船広場(上松木内大地田地内)で開催され、同地区8つの集落が約2ヶ月かけて制作した100個あまりの紙風船が次々と冬の夜空に舞い上がりました。

最下部のタンポ(灯油をしみこませた布玉)に火が灯されると、紙風船に描かれた武者絵や美人画、「家内安全」「商売繁盛」など願いをこめた文字が幻想的に浮かび上がり、ゆっくりと揺れながら夜空に舞い上がる様は優美で、訪れた観光客らを魅了。観衆は夜空に浮かぶ灯りが見えなくなるまで、いつまでも見上げていました。

# 冬の夜を彩る炎の輪 角館の火振りかまくら

角館町の小正月行事「角館の火振りかまくら」が2月13日に松木内川沿いの桜並木駐車場を会場に、14日は角館町内30数カ所で行われ、夜空を焦がすようにいくつもの炎の輪が浮かび上がりました。

400年以上の伝統を持つ「火振りかまくら」は、縄のついた炭俵に火をつけ自分の身体の周りを回し、田んぼの厄を祓うとともに五穀豊穡、無病息災、家内安全を祈願する伝統行事です。

雪が降りしきるなか、観光客らも次々と飛び入り参加し、火振りかまくらを体験。炎の迫りに驚き怖がる人や、興奮しながら何度もチャレンジする人など、それぞれ思い思いに幻想的な冬のまつりを楽しんでいました。



火振りかまくら実行委員会で作成した武家屋敷通りに並ぶ「雪とうろう」

